

【受講上の注意】

① 授業は、当然予習前提、また1〜46講（動詞・形容詞・形容動詞・助動詞）まで受講しているものとして行います。必ず各講の問題を三十分（理想は二十五分）で何も見ずに一回解いてみることを。その後、自分が納得いかなければもう十分、二十分使って解いたり、辞書や単語集を使うのは、非常に意欲のあることなのでやってほしいことであるが、まずは三十分で一回自力で解いて答を出してほしい。そして一回自力で出した答は消さない。

←

② 制限時間をオーバーしても一応、自分の納得のいく答を出したら、俺が訳した本文通釈があるので、最低一回は文章と訳を照らし合わせて授業に臨んでくれ（本文通釈は復習のときもフルに使ってくれ）。

←

③ 注意してほしいことは、何となく解かないでほしい。確かに悪問やこれは制限時間内に解くのはちょっと無理だよという問題もある。ただ、それに文句を言ってもしょうがないわけであって、ほとんどの問題には必ず出題者の意図があるので、必ず根拠を持って答を出してきてほしい。特に記述は必ず書いてくるように。

←

④ とにかく一流の予習をしてきてくれ。勘違いしないでほしい、一流の予習というのは、全問に正解することが一流の予習ではない。頭をフル回転して集中し、もうこれ以上できない、限界だというぐらい考えてほしい。その後、本文通釈があるんだから、ある程度の内容は、頭に入れて授業に臨む。それが一流の予習ってヤツだよ。いくら俺が一流の授業をしても、お前たちが一流の予習をしてくれないければ、成績は上がらない。予習で疑問点を明らかにして、授業中に間違えたところを直す。

「正確に早く読み(速読)、正確に早く解く(速解)をするために必ず次の①～⑤のことを常に頭に入れて予習をしてきてくれ」

- ① 俺は、授業なので一行、一行読んで説明していくが、君たちは必ず、まず五分で読んで文章全体の大意・流れをつかむこと(文章の中にわからない単語などがあっても飛ばし、とにかく五分で一回読む癖をつける)。この文章の全体像をつかむことが一番重要。
- ② 人物関係(特に主語)を押さえること。常に誰が何をしているかを考える。「」になっていたら、誰が誰に言っているのか、誰の心なかを考える。そして、主語・述語の関係を見抜く。人物は四角で囲み、登場人物を追っていく。その時注意してほしいことは、人物が同一人物なのに、異なる呼称で呼ぶことが多いので、新しい人物が出てきたら、これは前に出てきた人物と同一人物かそれとも新しい人物なのか確認しながら読む。また古文では主語や目的語がよく省略されるので注意する。
- ③ 敬語に注目する。敬語は絶対ではないが、一つの目安になる。基本的に
○えらい人物が主語↓尊敬語
○えらくない人が主語↓謙譲語または、尊敬語を使っていない。
- ④ 指示語は必ず明白にしておく。特に傍線が引いてあったり、傍線近くの指示語は必ず明白にする。
- ⑤ 同じ表現、同じ形(パターン)には必ず注意する。極端に言えば、同じ形をとっていれば同じ意味と判断してもいい。

以上のことを踏まえて予習してくる。

復習というのは、理想的なことを言えば授業中に復習していく。つまり予習をどのくらい頑張るかということ。一番伸びないパターンのヤツは、制限時間内三十分で一度解いて、「全然わからない。でもまあ授業を聞いていけば何とかなるだろう」と思ってるヤツ。そういうヤツはどうせ復習もしないし、仮にしてもいい加減で、またそういうヤツの中には、制限時間内で解かないで、予習もしないでいきなり授業から入るヤツもいる。理想は授業中に復習するぐらいがいいが、そこまでレベルが到達してない人は、授業が終わったら、俺が授業で説明したことを「ここはこうだから違う」「ここはこの部分がダメ」と、たとえば誰かに聞かれたときに説明できるかどうか。つまり俺の授業をもう一回お前ができるかどうかだ。